

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第3回高田区地域協議会

2 報告（公開・非公開の別）

(1) 令和3年度地域活動支援事業について（公開）

(2) 地域協議会に関する意識調査の結果について（公開）

3 議題（公開・非公開の別）

(1) 地域課題の検討について（公開）

(2) 令和3年度地域協議会の活動計画について（公開）

4 開催日時

令和3年6月21日（月）午後6時30分から午後8時5分まで

5 開催場所

高田城址公園オーレンプラザ 会議室

6 傍聴人の数

2人

7 非公開の理由

—

8 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・ 委 員：飯塚よし子、浦壁澄子、小川善司、北川 拓、小嶋清介、佐藤三郎
澁市 徹（副会長）、杉本敏宏、高野恒男（副会長）、富田 晃
西山要耕、廣川正文、本城文夫（会長）、松倉康雄、宮崎 陽、村田秀夫
茂原正美、吉田昌和（欠席2人）

・ 市役所：自治・地域振興課：田中課長、白倉係長、山田主任

・ 事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、小池係長、五十嵐主任

9 発言の内容

【小池係長】

・ 現在、北川委員、栗田委員、松矢委員を除く17人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【本城会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：高野副会長、茂原委員

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・資料により説明
(北川委員到着)

【本城会長】

「議題等の確認」について質疑等を求めるがなし。

— 次第3報告（1）令和3年度地域活動支援事業について —

【本城会長】

次第3報告（1）令和3年度地域活動支援事業についてに入る。

事務局より説明を求める。

【堀川センター長】

- ・資料No.1により説明

【本城会長】

- ・事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

以上で次第3報告（1）令和3年度地域活動支援事業についてを終了する。

— 次第3報告（2）地域協議会に関する意識調査の結果について —

【本城会長】

次第3議題（2）地域協議会に関する意識調査の結果についてに入る。

本日は、調査結果の説明のために自治・地域振興課の田中課長が来ている。

田中課長より説明を求める。

【自治・地域振興課 田中課長】

・資料No.2により説明

【本城会長】

ただ今の説明に質問のある委員の発言を求める。

【富田委員】

本日の報告とは直接的な関係はないが確認する。地域協議会は今期で4期目になるが、今回のような地域協議会に関する意識調査は初めての実施なのか。過去にも行ったことがあるのか。

【自治・地域振興課 田中課長】

専門家の方々に意見交換し、いくつかの課題を見つけて改善したことはあるが、今回のような地域協議会委員を対象としたアンケートの実施は初めてになる。

【富田委員】

このような意識調査は非常によいことだと思う。だが、ここまでまとめても具体的なアクションはなかなか実現できない。過去にこういう意見があり、これを具体的にやっている、これは駄目だ、そういうことを明確にするという強い意志を持たないと、多分これも腰砕けになってしまう可能性があると思う。

【自治・地域振興課 田中課長】

少なくとも短期的に取り組むべきものとしては、周知が不足しているとか、地域協議会の進め方をひと工夫できるのではないかとといったものを想定しており、改めて地域協議会に示したいと思う。議論の結果、実施した方がよいものがあれば、確実に実行するように努めたい。

【本城会長】

改善案について、方針を決定するとのことで内部協議を行っているようである。

【西山委員】

集計作業は量も多く、内容も豪華であったため大変だったと思う。基本的に市街地の方と13区では地域協議会のあり方、地域活動支援事業やその募集方法等も形態も違っている。それを全て1つにまとめて「何パーセント」といった結果を出しても、もともとの差があるように思う。できれば、地域的なものも含めた検証結果を出してもらわないと、高田区と山間地ではもともとが違うように思う。有効的な結果を出し、その結果を有効的に地域協議会の活動に活かしていけるような、検証のやり方を

してほしいと思う。

【自治・地域振興課 田中課長】

そういった点も含めて留意し、まとめていきたいと思っている。

【澁市副会長】

資料No.2のQ4「議論の結果の地域への貢献について」の「(2) 地域協議会が地域の団体との連携等に必要なこと」との質問がある。旧町村の13区とは違い、旧上越市は地域振興団体が無い。高田区地域協議会でいろいろ議論して、それをどのように実行するかというと、地域団体は町内会になり、町内会との協力が絶対に必要である。ところが平成27年の検証でも指摘されていたが、地域団体、例えば、町内会と地域協議会との間の連携をうまくやっていくには、行政の仲介が本当に重要だと思う。昨年、自治・地域振興課の前課長が音頭を取り、高田地区町内会長協議会の三役と議論した。しかし相手方は、我々と協力していくことについて、あまりポジティブではなかった。地域協議会は、条例に基づいて設置されている組織であり、町内会はあくまでも任意団体である。今回の調査は、地域協議会委員に対する質問であるが、行政に対してお願いしたいのは、もっと積極的に地域協議会と町内会との関係を保つような、或いは密接な連携ができるような役割を果たしてもらいたい。これからは是非とも、町内会長協議会との連携を深めるような役割をお願いしたい。

【自治・地域振興課 田中課長】

意見としてお聞きした。今回のアンケート結果だけを見ると、先ほど西山委員の発言にあったように、全てをまとめたようになっているが、全体としては必要に応じて、町内会だけではなく各課題によって、さまざまな団体と適宜話し合いが行われている。今回のアンケート結果では、それが実行されている事例が多いような結果になっている。ただ区によっては、それが叶わないという実態があることも承知している。市としても、町内会だけでなく、町内会を含めたいろいろな団体との連携が必要な場合、地域協議会とその団体とだけでは成り立たないということであれば、できる限り何かしらの関わりを持ちたいと思っている。

【本城会長】

高田区の場合、いろいろな経緯があり、最近は町内会との連携を取るよう努力をしている。市でも直近で、町内会長会と何か話し合いをしたと聞いている。それを受け

て、改めて地域協議会と話をするというところまでできている。その辺の方向性について、前課長同様に、前向きに検討をしてほしいと思っている。

他に意見を求めるがなし。

以上で、次第3報告(2)地域協議会に関する意識調査の結果についてを終了する。

— 次第4議題(1)地域課題の検討について —

【本城会長】

次第4議題(1)地域課題の検討についてに入る。

- ・資料No.3及び当日配布資料No.1により説明

ただ今の説明に質問のある委員の発言を求める。

【西山委員】

資料記載の内容自体に問題はないと思う。テーマが②③④と⑤と⑥とあるが、それぞれに漠然とした大きなテーマが挙がっている。この中からポイントを絞ることは各分科会で、例えば、災害、空き家、高齢者の問題となった時に、その分科会で問題点を出して学習会を行い、それを地域協議会の全体会に提言するかたちで進めていくことでよいか。

【本城会長】

そのように考えている。本日の段階では、テーマに対して特に補足すべき点等があれば出してほしいが、基本的には各分科会でテーマを揉んでいくかたちがよいと考えている。こちらから投げかけて討議するよりは、広く委員の意見を反映していきたいと思っているので、そのように進めたい。個々の意見はたくさんあると思う。それは分科会ごとにやる。分科会のメンバー決めについては、各委員の希望を聞き、なるべくバランスを取って3～4分科会程度に分けたいと思っているが、皆さんの意見を伺いたい。

【吉田委員】

我々は月に1回、地域協議会に出ている。分科会とあるが、市議会議員のようにこれで商売しているわけではない。そのため、できるだけ簡素にしてほしい。分科会への参加は希望制なのか。

【本城会長】

そうである。

【吉田委員】

定例会が月1回あり、自分達は他にもいろいろなことを行っており忙しいので、できるだけ簡素にしてほしいと思う。また、これまでにやってきた内容は外してほしい。②の雁木や空き家対策など、以前にもテーマとしたことがあると思う。毎回、意見を出すと似たようなテーマが出てきてしまう。そのため、自分はこのようなことを行うことには、あまり賛成ではない。

【本城会長】

そういった意見もあるし、新しいメンバーの委員もいる。ベテラン委員が過去に行った内容で完全燃焼していない中では、いろいろな意見もあると思う。そういうものも含めて、それぞれの分野で進めていくことは大事だと思う。

【西山委員】

自分も行ってもよいと思っている。確かに、空き家対策や高齢者問題、中心市街地といったことは毎回話が出てきているが、メンバーが違えば切り口や考え方も異なってくる。新しい委員が入ったときには、別の切り口が出てくると思う。地域協議会委員を長年務めている委員は、「以前はこのような結果だった」と同様の意見が出た際はそれを除くこともできると思う。否定しては何も先に進まないため、改めて話を進めていければ、いろいろな意見も出ると思う。

【小川委員】

空き家対策や高齢者世帯の問題は、日本全国どこのまちでも共通な問題である。もっと高田区の問題を中心に考えていきたい。そのために、まず、高田区地域協議会委員20人それぞれが、高田区に対してどのような誇りを持っているのかを聞いてみたい。高田区に対する誇りを持っていれば、何をしたいのかという意見も出てくると思う。そういった話し合いを通して地元に対する認識を高め、いろいろな議論につながっていくことになると思う。そういった議論が土台となり、地域の発展に寄与していくのではないかと思う。

【本城会長】

今ほどの小川委員の意見はもつともだと思う。そういったことも含めて、分科会で

課題別に整理していけるとよいと思っている。正副会長がまとめた提案内容に総体的に合意が得られるのであれば、その内容で進めていきたいと考えている。正副会長に一任をいただけるのであれば、今ほどの意見も含めて、検討したいと思っている。

今の段階では、委員の希望する分科会について確認したいと思っている。提案した分科会の希望を聞くことができれば、改めて整理したいと思う。

【杉本委員】

分科会、全体会のどちらで議論をしても構わないのだが、議論した結果をどうするのか問題だと思う。例えば、ずっと話が出ている空き家対策について、議論した結果はどのように扱うのか。例えば、市へ意見書として出すのか、または議論をただで委員の認識が深まったとして終わりとするのか。それによって議論の進め方や方法、材料の選び方が違ってくるように思う。どの分科会に所属するといったこともよいが、最後の落としどころが肝心かと思う。

【本城会長】

結果をどのように反映をするのかについては、中身によっていろいろな意見も出るとしている。市に対して要望するとの意見が出ることもあると思う。或いは、地域協議会が地域に入り、地域住民と一緒に解決策を話し合うという場面もあるかもしれない。これはケースバイケースで、中身によるとしている。例えば、災害の問題であれば、水害、地震、雪対策等については、市民の代表である市議会でも行政にさまざまな提言がされている。それと重複する部分があるかと思う。ただ、高田区における各テーマに対する課題を掘り下げて、提言する形にまで持っていければよいのではないかとしている。残された任期は約2年半ある。その中でどう進めていくのかも含めて、ある程度、任期中に整理ができれば、地域協議会の課題として次年度に繰り越していく、引き継いでいくことも必要なことだと思う。なかなか簡単に解決できる問題ばかりではない。これは本当に切ない市民の課題でもあるため、地域協議会が受けとめ、問題点を話し合ってみることも大事だと思う。今ほどの杉本委員の意見を含め、最終的には市に意見、提言する場面も出てくると思う。或いは緊急性があるものも出てくると思う。地域協議会で議論し、各分科会の経過についても正副会長で確認しながら進めていきたいと思っている。本日の段階では、目的や最終的なやり方といったところまでの答えは出ないが、互いに共通認識を持ち合うということ

で進めていければと思う。大筋な流れについて賛同を得ることができれば、意見を聞いて進めていきたい。

【西山委員】

地域協議会の活動として、この分科会を行うのか、またはボランティアとして活動するのかを教えてほしい。高田区は多くの諮問がきたり、年末にはいろいろな事柄が出てきたり、月に2回地域協議会を開催しなければ収まらないような状態になることもある。そのため、分科会も実施する場合には、月に3回開催しなければならない可能性もある。分科会は、地域協議会のように交通費が支給される公的な会議として扱うのか。または、グループを決めた後は完全にボランティアのようなかたちで集まることになるのか、確認したい。

【浦壁委員】

テーマごとに分科会が設定されているようであるが、挙がっているテーマのほとんどがグループ討議等、地域協議会でも何回も議論しているものである。それをあえて、分科会で同じようなことを行う必要があるのか。また分科会の結果を、結局はどうするのか。ただ議論しっ放しのまま終わるのでは意味がないと思う。自分たちの原点として、地域協議会はまちづくり、中心市街地の活性化等が主たる目的である。行政が動かなければどうにもならないような問題をあえて地域協議会で取り上げる必要はないと思う。身近な活性化に繋がるようなテーマで分科会を行うのであればよいと思う。また1つの分科会を選ぶと、他の分科会には出られないわけではないと思うが、物理的に難しいと思う。これまでに何回も繰り返しているテーマである。グループ討議だけではなく、地域協議会でも同じような内容で議論している。結局、どのように総括をするのか、すでにそういう段階にきていると思う。正副会長が今後の進め方について考えたことはよいのだが、これは本当に初期の段階である。

【富田委員】

浦壁委員に聞きたい。これまで11年間くらい審議してきたということであるが、この地域協議会は諮問事項についての審議、自主的審議事項、地域を元気にするために必要な提案事業の3つだと思う。高田区の自主的審議事項は、過去2010年から15件行っている。その中で「買い物弱者、中心市街地の衰退」について議論している。浦壁委員は何回も議論していると発言していたが、具体的にどうなのか実績を示

してほしい。自分は今期が初めてであるため、過去の資料を調べた。その中では該当する内容の議論はほとんどなかった。当日配布資料No. 1に記載されているテーマは、ほとんどが自主的審議事項になると思う。①は違うのだが、それ以外の案は自主的審議事項だと思う。過去10年間で15件の自主的審議事項を行ってきたが、その中に一切ない。浦壁委員が発言しているものは、具体的にどういうものなのか。抽象論で発言されても分からないため、突っ込むことができない。事務局に確認である。そういう議論をしたデータがあるのかどうか教えてほしい。今ほど浦壁委員より「過去に何回もやってきた」との発言があったが、それは具体的にどういうかたちで残っているのか、まずそれを調べることも1つの手だと思う。

【茂原委員】

高田区地域協議会の第3期の4年間をまとめた活動報告というものを以前にもらっていると思う。資料を見る限りでは、自主的審議事項が5件ほど記載されている。これまでの話を聞いていると、自主的審議事項については意見として提案されたものもあるが、途中で頓挫して生煮えのものも結構ある。「買い物弱者の発生・増加と中心市街地の衰退について」は対象者の捉え方が難しいということで、途中でやめるとの話になったと資料に記載されている。また、高田城址公園周辺の雨水対策については、昨年度、現地見学もして審議したと思う。以前にも同じようなことを行っている。しかし、結果的にどうなったのかがよく見えてこない。そういったことがあるので、ただ、やった、照会した、とのかたちで終わってるような感じがしている。テーマとするのであれば、もっと突っ込んで結論が出るまでやる。分科会については、強制ではないとの話であった。全員が参加をしなくてもよいといった話であった。自分の聞き違いか。

【西山委員】

資料に記載されている大きな3つのテーマは基本だと思う。除雪のテーマについては、地域協議会が始まって1番初めに西城町などでの消雪パイプの件を審議している。テーマ1つ1つを細かくポイントで審議していた。消雪パイプの話をしながら、高田の除雪はどうかという話し合いもしていた。今回改めて、除雪や災害をテーマにして、今期の委員で話し合うことができれば、新しい切り口で話し合いができるかもしれない。昔、審議した内容であれば、次はこの内容にしようなど、話し合うこ

とがグループ討議でとてもよいことだと思う。過去にやった、やらないということではなく、大きなテーマが3つ出ており、幾らでも問題点を探ることはできると思う。そこをまずは探り出すことも1つの勉強だと思うので、ぜひ進めてほしいと思う。実際に、地域協議会の1期、2期、3期で少しずつそういった話し合いをしてきている。諮問がきたところで内容を話し合ったこともある。自主的審議だけではなく、いろいろな話し合いをしてきた。

【宮崎委員】

私は第1期より地域協議会委員をしているが、やっとうこういう議論ができたとみている。中途半端ではなく、徹底してやろうというのが私の考えである。結論まで出すくらいやりたい。

【吉田委員】

いろいろな意見が出ているが、正副会長案を行うかどうかについて、最終的に採決をとればよいと思う。

【本城会長】

今は各委員の意見を聞いている途中である。他に意見はあるか。

【飯塚委員】

以前にも何度か、これらのテーマについては取り上げている。だが、世の中はどんどん変わってきているため、記載のテーマに拘らなくてもよいと思う。環境も世の中も変わってきている。記載されているものをテーマとしてもよいとは思いますが、違う議題に沿っていってもよいと思う。

【杉本委員】

自分も1期目より地域協議会委員をしているが、議論がやりっ放しとなり最後の結論に至らないという点があり、古くからいる委員が反省しなければならない点かと思っている。そのため、最終的にこの方向へもっていくというのを見えるかたちにしておかなければ、これまでと同様に議論はしたが、やりっ放しで終わってしまう心配がある。また、この地域課題についての今後の進め方については、自主的審議そのものだと思う。自主的審議の提案書に記載したか否かは別として、やってることは自主的審議そのものかと思っている。よって、議論した結果は市に出せるものは積極的に出していけばよい。中間報告のような形でもよいと思うので出す。自主的審議につ

いても反省点があり、出しっ放しといった面もないわけではない。1番激烈にやったオーレンプラザを建てるか否かについての審議をした際には、最後の最後まで粘り頑張ったわけだが、他の問題でいうと意見書に対する回答はもらったが、その先どうなったかまでは追跡していない。今後はよい案が出たら、市に意見し、市でやるとなったら、どこまでやったのか追求するところまでやらなければ、やる価値はないと思う。やるなら、そこまで徹底すべきと思う。

【本城会長】

そのつもりで提案をしている。議論を各分科会で行い、必要のない課題は整理し、緊急性のあるものについては取り上げて議論する。場合によっては、自主的審議事項として市に提案をして回答を求めることもありだと思ふ。小川委員の発言にもあったように、高田区の地域のことを考えるという視点で整理をしていけばよいと思う。

中身的には分科会ごとに整理、検討を進めることができれば良いと思っている。議論しっ放しで終わっている、或いは行政が動かないとの意見もあったが、動かせるように我々がアクションを起こすことが大事かと思う。そのような方向で進めていきたいと思うので、できればこの正副会長案に賛同いただければありがたい。

【西山委員】

先ほど自分が質問した内容の回答を得ていない。分科会をやるにしても、公的な会議として認めてもらえるのか。

【本城会長】

そのように理解している。

【村田委員】

分科会形式とするテーマは当日配布資料No.1の②の下の「高田区の活性化について」、⑤の下の「高田区の魅力の発見と共有について」、⑥の下の「高田区における災害時の対応について」の3つのテーマが提案されているということか。①と⑥については、全体の年間的な流れの中に位置付け、ある時期に地域協議会委員の皆でやるべきものとした方がよいとの印象を持った。ここでは3つのテーマが提案されているが、テーマを絞りいくつかの力点を共有しながら、分科会形式による協議という方法は確かに有効であると思う。また、別の角度から言うと、「高田区の活性化について」といった場合、力点をどこに置くかだと思ふ。資料には雁木、空き家、高齢者世帯と

明示されているが、グループの中では活性化のポイントの力点をどこに置くのかについて、違う切り口になるかもしれないと思った。また、「高田区の魅力の発見」とあるが、魅力の創造、新たな目当てという意味では、創造とか、そういう力点、或いはキーワード的なものが有効だと思った。分科会形式にする場合のテーマについては、もう少し練り上げたかたちで設定した方がよいと思う。

【本城会長】

分科会の中でそのようなことを議論していこうということなので、その中で意見を生かしていただければと思う。

【村田委員】

例示されていることで、そこに縛られてしまう危険性があるように感じた。

【本城会長】

今後の進め方については、今の議論も踏まえ、また正副会長で検討するが、この3つの分科会で進めていく方向性については了承いただけるか。それとも採決をとるか。

【村田委員】

3つの設定については、自分は違うと思い発言した。⑥の「高田区における災害時の対応について」は、全体の流れの中に位置付ければよく、テーマの1つにはならないのではないか。

【本城会長】

協議内容のたたき台として提案している。分科会の中でいろいろな意見を出してもらうことでよいと思う。大筋で3つのテーマに分けており、テーマごとに各自希望する班を選ぶかたちかと思う。内容的には本日出た意見を正副会長で改めて整理し、次回提案することになると思う。大筋で正副会長案に合意されるか。それとも賛同できないか。分科会に参加しないということでもよいと思う。そこまで縛りをつけるつもりはない。

【西山委員】

大分議論を尽くしたと思う。この案で進めるか否かについて、採決を取ってはどうか。多くの委員が賛成するのであれば、そのように進めればよい。参加しないこともできるなら、そこは個人の意思表示であり、それも含めながら進めていけばよいと思

う。

【本城会長】

なるべく正副会長案に賛同いただければと思っている。駄目だということであれば採決を取りたいと思う。様々な意見があったが、大筋で賛同いただけるのではないかと判断している。分科会には入らない委員がいてもよい。3つのテーマの中身については、また議論するとして、大筋で3つのテーマと分科会を設置することについて、採決を取った方がよいか。自分はとりたくない。

【富田委員】

昨年11月より意見交換会を行い、班にわかれて内容を絞り込み、今日に至っている。その流れできている。皆賛同しているのではないか。

【浦壁委員】

年度末までに分科会で検討内容をまとめ、全体会で報告することになるのか。複数回分科会で詰めるより、全体会の中で会議の進め方により、的を絞って十分に協議できると思う。高田区の委員は20人で、3つに分けるのであれば1分科会で6人ほどだと思うが、もったいないと思う。分科会は理想的かもしれないが、分科会にわかれて複数回突き詰めて何をやるのかと思う。結論というか、意見を出すことに何回も必要なのか。委員の意見を聞いて、全体的に地域協議会の意見としてまとめるのであれば別である。分科会で何回もただ意見を出し合うことは無駄だと思う。

【小川委員】

資料には「地域課題」と書いてある。課題というと、問題点、解決しなければならないこと、といったイメージであり、こういう課題がある、こういう問題点がある、といった話ばかりとなり、ではどうするのか、となってしまう。私は各委員より「高田区の何を誇りに思っているのか」を1言ずつ話してもらい、その誇りに思っていることに対してどのようにしたいのか、そのプロセスを通してグループ分けができてくるのではないか。

【本城会長】

提案の内容は、グループ別に協議してきた結果を正副会長で整理したものである。各グループで協議し、各グループの代表者が発表して、全体で確認しあったわけである。その経緯を忘れられては困る。新しいことを提起しているわけではない。グル

ープで協議したものを整理、まとめたものについて、さらに深く議論しようという提案をしている。また、元に戻すような発言は控えてほしい。今まで行って来たグループ協議は何だったのかとなってしまう。そういう点を理解してほしい。そして一定の方向性を出していきたいと思う。出した以上は、行政にもの申すところはもの申す。小川委員も言っているが、我々はやはり高田区のまちづくりのために何をするのが大きなテーマとしてあり、その中の枝葉がある。そういう議論を皆で行い、最終的にそれを整理する。グループによっては早く結論が出ると思う。また、直ちにやらなければならないテーマも絞られると思う。或いは簡単にできないテーマもあると思う。これについては時間がかかるかもしれない。そういうことをお互いに議論しようということである。分科会は月に1回必ず開催しなければならないわけではない。そこは各分科会の自主性に任せて、協議を深めていく。そういったことがなければ、グループ協議というものは進まないと思う。参加できない委員がいるのであれば、分科会に入らなくてもよいと思う。これまでのグループ協議の結果を踏まえ、整理して提案した。そのため、採決で決めたくないという思いから、皆に賛同いただきたいと思っている。中身については、分科会の中で検討すればよいと思っている。

【村田委員】

上の2つのテーマは1つにまとめて、全体の力を集中するとよいと思う。いろいろな角度から手立てや発想を1つのテーマに向かって力を合わせる。グループ討議と全体会で共有しながら進める。3つ目のテーマは、年間的な流れの中に位置付けてもらうものだと思う。1番最初の地域活動支援事業の発表についても年間の中に位置付けてもらえばよいことである。結論を繰り返すが、テーマは1つに絞っていくことが、やはり1番有効であり、何としてもそれを実現していくという構えが共有されると思うが、いかがか。

【西山委員】

3つの分科会に分かれて議論し、それを全体会に戻すかたちだと思う。これで十分だと思う。多分この進め方でよいと考えている委員が多いと思う。ここで結論を出し、次の段階に進めてはどうか。私は賛成である。

【本城会長】

この正副会長案はたたき台として提案しているものであり、細かいことは分科会

で揉んでもらうことにしたい。

この3つの分科会で進めることを諮り、委員の了承を得る。

では、どの分科会を希望するのかについて確認したい。

【澁市副会長】

勘違している委員がいるため、聞いてほしい。資料の一番上の地域活動支援事業の発表会は毎年度末に行うということで、分科会とは関係ない。その下の3つのテーマについて、分科会をするというものである。

【本城会長】

テーマが3つある。1つ目は「高田区の活性化について」、2つ目は「高田区の魅力の発見と共有について」、3つ目は「高田区における災害時の対応について」である。この3つの分科会について、希望する分科会を選んでいただく。細かい提案は、本日の意見も踏まえて次回の地域協議会で示したいと思う。できれば本日、各委員が希望する分科会の希望を取りたい。

【西山委員】

欠席の委員もいるので、アンケート等で希望を取りまとめてはどうか。手が挙げづらいというのものもあるし、考える時間も必要かと思う。

【本城会長】

後ほど、議題（2）令和3年度地域協議会の活動計画についてでも触れるが、意見があれば7月2日までに事務局へとあるので、7月2日までに各自希望する分科会を事務局に報告することでどうか。希望制なので、辞退する委員はそれでよい。

委員の希望を7月2日までに事務局に報告することを諮り、委員の了承を得る。

以上で、次第4議題（1）地域課題の検討についてを終了する。

— 次第4議題（2）令和3年度地域協議会の活動計画について —

【本城会長】

次第4議題（2）令和3年度地域協議会の活動計画についてに入る。

澁市副会長より説明を求める。

【澁市副会長】

- ・当日配布資料No.2により説明

分科会の希望集約について、事務局から各委員へ文書で照会してほしい。

【堀川センター長】

そのようにする。

【本城会長】

ただ今の説明に質問のある委員の発言を求める。

【吉田委員】

1年前までは、地域活動支援事業の検証を行っていたと思うが、最近はしていないように思う。何か理由があって検証をやめたのか。これまでは提案前に検証を行って、附帯意見を付けるなりし、新年度の地域活動支援事業に活用してもらっていたと思う。

【本城会長】

事務局より説明願う。

【堀川センター長】

地域活動支援事業の検証は、前期委員の中で検証作業についての合議の上で行ってきたことだと思う。これまで行ってきた検証方法では駄目だと思われる委員もいたと聞いている。改選により新しい委員となったので、改めて高田区地域協議会として検証をするか否か、検証するのであれば、その方法等を協議して進めてほしいと思う。

【本城会長】

以上で、次第4議題(2)令和3年度地域協議会の活動計画についてを終了する。

— 次第5事務連絡 —

【本城会長】

次に、次第5事務連絡について事務局より説明を求める。

【堀川センター長】

- ・次回の協議会の日程連絡

第4回地域協議会：7月20日(火)午後6時30分から 福祉交流プラザ

第5回地域協議会：8月23日（月）午後6時30分から 福祉交流プラザ

- ・分科会の希望集約について、事務局から文書で照会する（7月2日までに回答）
- ・当日配布資料

高田区地域協議会たより第46号

「主要事業・プロジェクトの概要」（追加分）

「青田川を愛する会」パンフレット

【本城会長】

今ほどの説明について、質問のある委員の発言を求める。

【杉本委員】

先ほど話が出た地域活動支援事業の検証については、やはり行った方がよいと思う。次回の会議で具体化してはどうか。

【本城会長】

事務局より説明願う。

【堀川センター長】

正副会長に諮って案を検討し、皆さんに諮りたいと思う。

【本城会長】

- ・他に意見を求めるがなし。
- ・会議の閉会を宣言

10 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL: 025-522-8831 (直通)

E-mail: nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

11 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。